

審査の観点

1. 基本的事項

- ① 既存の後期臨床研修（以下、「専門研修」という。）プログラムを見直し、他大学の大学病院及び関連医療機関等と連携したプログラムを設けることによって、専門研修を中心とした教育効果、大学病院の機能強化、地域医療の確保・充実等に関する明確な効果が期待されるとともに、これらに関する数値目標等が設定されていること。【申請書・様式2、様式5、様式6】
- ② 卒前教育、初期臨床研修等を通じて得られた基本的な臨床能力に基づき、医学系学会による認定医及び専門医（以下、「専門医等」という。）に関する資格の取得や臨床研究者としての高度な能力を獲得できるものであること。【申請書・様式2、様式5】
- ③ プログラムに参加する大学病院及び関連医療機関等の中で、優れた専門医等及び臨床研究者を養成する上で必要な教育研修体制の補完性が明確となった連携が図られていること。【申請書・様式2、様式5】
- ④ 大学病院及び関連医療機関等における教育環境及び教育指導体制が構築された上で、プログラム参加者から見て魅力的なプログラムが設定されていること。【申請書・様式2、様式3、様式4、様式5】
- ⑤ 卒前教育から生涯教育までを見通した長期的で一貫性のある医師キャリアデザインを提示していること。【申請書・様式2】
- ⑥ わが国の医師養成の質的向上に資する成果が期待できること。【申請書・様式6】
- ⑦ 高度医療の提供や地域医療への貢献など、当該大学病院の院内及び院外における教育研究診療活動と管理運営体制が適切に機能していること。【全般】

2. 実施体制等

(1) 管理体制

- ① プログラム責任者が置かれ、大学病院及び関連医療機関等において、病院長、コーディネータ、コース責任者、指導者、研修担当者等が密接に連携した責任ある体制となっていること。【申請書・様式2、様式3、様式4】
- ② 国による財政的支援が終了した場合においても、プログラムの実績を踏まえて、継続的で発展的な展開を行う意図が示されていること。【申請書・様式6】
- ③ 大学病院及び関連医療機関等において、安全管理等のマネジメント体制が適切に整備されていること。【申請書・様式2、様式6】
- ④ 各大学病院において、個別のプログラム参加者のキャリアを把握できるよう、適切な人事管理のための人的・物的体制を整備していること。【申請書・様式6】

(2) 連携体制

- ① 申請担当大学の病院と連携する大学病院及び関連医療機関等のそれぞれの機能・役割分担が明確にされていること。【申請書・様式2】

- ② 各大学病院において、キャリア形成支援を行う部門（コーディネータによる連絡調整、プログラム開発・評価、生涯教育、ファカルティ・デベロップメント等を行う組織）が設けられていること。【申請書・様式2、様式3】
- ③ キャリア形成支援を行う部門の機能が発揮できる学内規定等が整備されていること。【申請書・様式6】
- ④ コーディネータには、プログラム全体の企画・調整・進行管理・評価等を担う権限が与えられ、プログラムの実施に際してリーダーシップのとれる立場の者を充てていること。【申請書・様式3】
- ⑤ コーディネータが中心となり、大学病院内、連携する大学病院及び関連医療機関等の学外との密接な連携が図られる体制となっていること。【申請書・様式2、様式3、様式4】
- ⑥ 大学病院及び関連医療機関等が相互に研修内容の検討・調整を行える体制が整備されていること。【申請書・様式2、様式6】
- ⑦ 大学院生がプログラムに参加している場合、大学院教育との連携が円滑に行い得る体制となっていること。【申請書・様式2、様式6】
- ⑧ プログラムの充実のため、大学病院及び関連医療機関等が対等な人材交流を含む相互の支援体制ができていること。【申請書・様式2、様式6】
- ⑨ 医師の養成・配置に関して、大学病院及び関連医療機関等が所在する都道府県の考え方との整合性や医療関係団体との連携が図られていること。【申請書・様式2、様式6】
- ⑩ 大学病院及び関連医療機関等による広域的なネットワークが構築されていること。【申請書・様式3、様式4】

(3) 評価体制

- ① プログラムの実績等に関する評価が適切に実施できる組織体制の整備がなされ、評価結果を教育研究活動の質の向上・改善に結びつける制度の整備がなされていること。【申請書・様式2】
- ② プログラム全体の事業目標（専門研修期間中における学会発表、専門医等の取得、関連医療機関及び地域の医療機関での研修者数等に関する具体的な数値目標）が明確に設定されていること。【申請書・様式2】

(4) 養成計画

- ① コースごとに、習得できる知識・技能等について、研修の各段階における具体的な到達目標を設けていること。【申請書・様式5、様式6】
- ② コースごとに、実現可能な事業目標が設定されており、目標達成に向けた養成計画となっていること。【申請書・様式5、様式6】
- ③ 地域の医療機関への医師派遣機能等に関する大学病院の役割を含め、社会的・地域的なニーズを踏まえた養成計画であること。【申請書・様式2、様式6】
- ④ 卒前教育修了時・初期臨床研修修了時における知識・技能等に関する要件等が明確に設定され、それを踏まえたコースの設定となっていること。【申請書・様式2】
- ⑤ 専門医等を取得後も、国民の期待に応え、さらに高度な知識・技術を有した医師や指導者の養成プログラム等に接続できる養成計画であること。【申請書・様式2】
- ⑥ 質の高い臨床研究者を養成するための教育内容・方法が明確に示されていること。【申請書・様式2、様式5】
- ⑦ コースごとに、参画する大学病院及び関連医療機関等が明らかにされ、それぞれの病院

等における指導体制、指導内容・指導期間・特徴等が明確に示されていること。【申請書・様式5】

3. 教育体制

(1) 教育環境体制

- ① 事業を充実かつ円滑に実施するため、各大学病院における専門の教育組織が整備されていること。【申請書・様式3】
- ② シミュレーター・遠隔教育システム等の機器・設備の整備、カンファレンスルーム等の施設など、事業の効果的・効率的な実施に必要な教育環境が整備されているか、または具体的な整備計画があること。【申請書・様式3】
- ③ プログラム参加者が大学病院及び関連医療機関等を循環するに当たり、研修に専念できる環境・生活環境が十分に配慮されていること。【申請書・様式3、様式4、様式6】
- ④ 大学病院及び関連医療機関等において、教育研究診療に関するこれまでの実績等があること。【申請書・様式3、様式4、様式5】
- ⑤ 研修内容やコース変更等に関して、プログラム参加者からの相談等に応じることができる環境の整備やそれらを踏まえた研修内容の改善・調整を行える体制が整備されていること。【申請書・様式6】

(2) 教育指導体制

- ① コースの専門性に応じて、臨床経験豊富な指導者を大学病院及び関連医療機関等に配置または巡回させていること。【申請書・様式2、様式5、様式6】
- ② コースごとの指導体制について、細やかな指導計画を策定するなど、指導体制の整備が図られていること。【申請書・様式6】
- ③ 大学病院及び関連医療機関等を巡回する指導者に対する指導環境の整備等の必要な支援がなされていること。【申請書・様式2、様式5、様式6】
- ④ ファカルティ・デベロップメントなど、指導者の指導能力・資質の向上に関する取組の体制が整備されていること。【申請書・様式2、様式5、様式6】

4. 教育内容

(1) コース

- ① コースごとに、大学病院及び関連医療機関等において、養成する専門分野に必要な診療実績（症例）等が確保されていること。【申請書・様式5】
- ② 全てのプログラム参加者が専門医等の資格を取得できるコースであること。【申請書・様式5】
- ③ 地域医療・総合診療等の地域医療への貢献が特に期待される専門医等を養成するコースを設定していること。【申請書・様式5】
- ④ コースごとに、チーム医療を習得する機会を設けていること。【申請書・様式5、様式6】
- ⑤ 専門医等を含めた先輩医師、後輩医師と、様々な課題等の対応に関して情報交換やディスカッションができる機会を設けていること。【申請書・様式5、様式6】
- ⑥ 募集人員の総数が参加大学の医学部卒業者総数の少なくとも概ね5割以上であり、募集人員のさらなる拡大を目指すとともにコース間・専門領域間で募集人員の偏りが無いなどバランスがとれていること。【申請書・様式5、様式6】

- ⑦ コースごとに、プログラム参加者が一部の大学病院・関連医療機関等に偏在することなく、バランスよく配置され、当該病院等の教育研修能力を上回ることがないなど、効果的な教育研修が実施できること。【申請書・様式5、様式6】

(2) 専門医等の取得等

- ① コース修了後は、専門医等が取得できるよう、関係学会等との連携が図られていること。【申請書・様式5】
- ② 大学病院及び関連医療機関等における教育内容及び期間等が、専門医等の資格修得の要件を満たしていること。【申請書・様式5】

5. その他

- ① 患者の視点に立った診療が実践できるための配慮がなされていること。【申請書・様式6】
- ② プログラムの目的を達成するために初年度の実施計画及び21年度以降の実施計画が具体的かつ妥当なものとなっていること。【申請書・様式7】